



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） *Nara IDSC*

今週の概要

- 第 30 週の感染症情報
- 流行感染症情報：手足口病

⊕ 第 30 週の感染症情報（7 月 22 日(月)～7 月 28 日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北部	中部	南部
1	手足口病	5.50	→～↑	→～↑	↑	→～↓
2	感染性胃腸炎	2.06	→	→	→	→～↓
2	ヘルパンギーナ	2.06	↑	↑	↑↑	↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.41	→～↓	→～↓	→	↓
5	水痘	0.35	→～↓	→	↓	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数（29→30週）は186→194例と推移した。上位5疾患は①手足口病（106→93例）（定点あたり5.47と警報基準5を超えている。）、②ヘルパンギーナ（33→45例）、③感染性胃腸炎（19→26例）、④水痘（7→10例）、⑤A群溶連菌咽頭炎（9→7例）、眼科定点の報告は流行性角結膜炎が2例あった。基幹定点の報告は細菌性髄膜炎が1例あった。

（有山 記）

県北部外来状況 外来患者数は学校が休みで少なくなっているが、手足口病が保育園児を中心に大流行している。保健研究センター依頼の精密検査では、7月初旬依頼分でエンテロウイルス 71 型が、7月後半依頼分でコクサッキーA6型が報告されている。前者は発疹口内炎とも小さく熱も軽微、後者は発疹が大きく38-39度の発熱を伴う例が多い。それ以外では咽頭結膜熱やヘルパンギーナなどの夏風邪がでている。溶連菌咽頭炎も多くはないが毎週みられる。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は177例で、前週報告の145例から増加。上位5疾患は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③ヘルパンギーナ、④A群溶連菌咽頭炎、⑤咽頭結膜熱の順で、手足口病の定点当たりの報告数が6.29と再度増加し、なお警報レベル継続中。ヘルパンギーナの報告数(24例)は、ほぼ倍増。手足口病の報告数(75→88例)は、再度増加。感染性胃腸炎の報告数(42例)は、やや増加。咽頭結膜熱の報告数(6例)も、やや増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数(7例)は、ほぼ横ばい。桜井HCおよび葛城HC 両管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が各々順に1例、3例の計4例あったが、両管内基幹定点からの報告は、共になかった。

(村井 記)

県中部外来状況 夏季休暇で外来数は多くない。軽度の感冒が主。手足口病が続いて流行中。発疹は手足末端より膝に多い傾向。口内炎は舌に大きい場合が多い印象。ヘルパンギーナは今夏は少ない。感染性胃腸炎はやや減少傾向、嘔吐が主で水様下痢を伴うものもあるが、軽症。迅速ではノロ陰性。その他水痘、A群溶連菌感染症が少し。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(29→30週)は25→11例と減少。報告のあった疾患は、①手足口病(13→6例)、②感染性胃腸炎(2→2例)、③突発性発疹(0→1例)、③ヘルパンギーナ(8→1例)、③マイコプラズマ肺炎【基幹定点】(0→1例)であった。

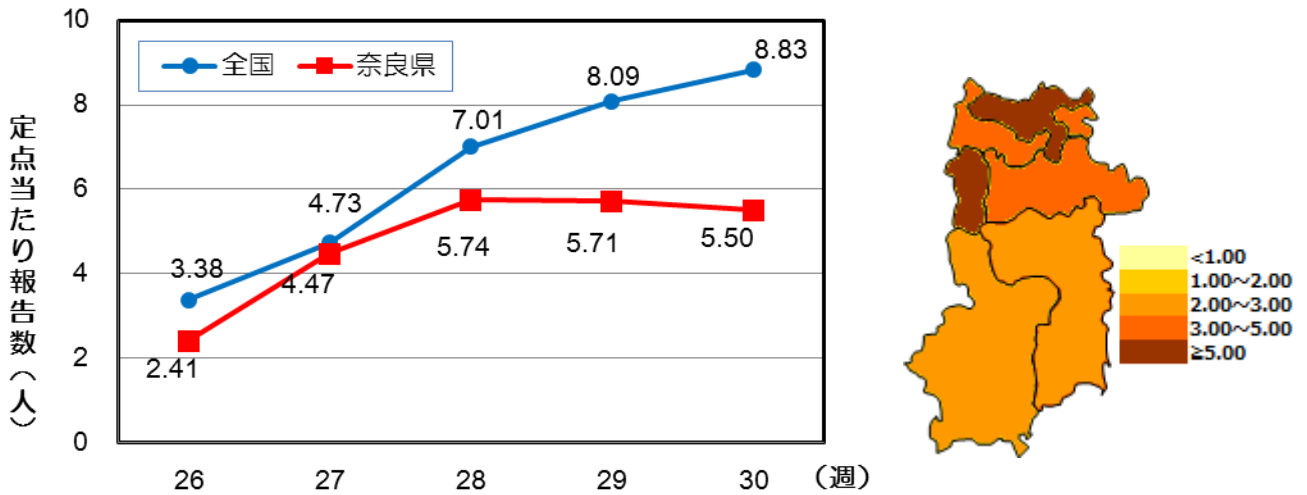
(柳生 記)

県南部外来状況 夏休みに入った影響か小・中学校の感染症は減少。手足口病やヘルパンギーナも保育所での流行はあるも患者数は多くなかった。夏かぜ様の発症でも、発熱遷延、咳嗽増強例には細菌感染症もあり、初診時の鑑別は困難であった。

(寺田 記)

《流行感染症情報：手足口病》

第30週の奈良県全体における定点あたり報告数は5.47（報告数187）と、引き続き警報基準値を超えています。全国値は8.83であり、依然として増加傾向にあります。



感染症情報センターホームページ
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>

